



ものづくりで教育に感動を

KYOTO KAGAKU

第56回日本医学教育学会大会 / 株式会社京都科学 共催セミナー

卒前から卒後を繋ぐ シナリオベースシミュレーション教育

ランチョンセミナー5

座長 奈良 信雄 先生

日本医学教育評価機構 常勤理事 / 順天堂大学医学部 客員教授 / 東京医科歯科大学 名誉教授

演者名 万代 康弘 先生

東京慈恵会医科大学 准教授

開催日時 2024年8月9日(金) 12:00 – 12:50

会場名 帝京大学 板橋キャンパス 第7会場 (301講義室)

〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1



整理券制

整理券は**当日**に配布いたします。

日時 8月9日(金) 当日
8:00 – 11:00

場所 大学棟本館 2階
参加受付付近

整理券(お弁当)は160枚ご用意
席数は200ございます

事前に第56回日本医学教育学会大会の参加登録をお済ませの上、ご来場ください。

詳しくは大会ホームページをご覧ください。 <https://www.jsme56.org/>

※Live配信・オンデマンド配信はございません。

※本セミナーは整理券制(※当日配布)です。

※整理券は160枚(予定)に達し次第、配布終了になります。配布時間・配布場所の詳細は大会ホームページでご確認ください。

※整理券はセミナー開始時間から5分後に無効となり、空席がある場合は、整理券をお持ちでない方も入場できます。

お問い合わせ

(株) 京都科学 企画部 企画課

〒612-8388 京都府京都市伏見区北寝小屋町 15 番地

TEL : (075) 605-2510 E-mail : simsim@kyotokagaku.co.jp

卒前から卒後を繋ぐシナリオベースシミュレーション教育

万代 康弘

東京慈恵会医科大学

(背景) 医学部教育において医師養成の展開として、シームレスな卒後との接続を目指して医学教育モデルコアカリキュラムが策定され、診療参加型臨床実習の充実が進められてきた。しかし、臨床実習期間の充実は進展したが、いわゆる門田レポートにおいても質的な充実が望まれるとの報告がなされている。モデルコアカリキュラムで定めた臨床推論における主要症候37症候が策定、臨床実習で経験できないことや患者対応実践においては多くの施設で対応の実践までは困難であると思われる。卒後臨床研修に接続するためには経験症例の底上げが望まれる。シミュレーション学習では疑似体験ではあるが患者対応の実践が可能で、また安全な学習環境で振り返りを行うことでその経験の代替えがある程度可能ではないかと考える。

(方法) 代表的な症候からシナリオを4症例作成して、卒前の臨床実習学生と研修医にトレーニングを行った。4症例を続けてトレーニングを実践。1症例目と4症例目の実践力の評価を行う。評価項目は①初期対応能力、②臨床推論能力、③重症度判断の評価を行った。

(結果) 現時点では4シナリオの実施後の能力は臨床実習学生と研修医とも能力向上が認められた。今後、データ収集と分析を行い発表当日に結果を報告する。

(考察) 臨床現場に近いシナリオ作成を行い、シミュレーション教育を実施することで、初期対応能力と臨床推論能力を高められる可能性が示唆された。また短時間で能力向上を目指すためには、経験からの振り返りを行うことが大切な要素と考えられた。経験を振り返る自己省察能力はシミュレーション教育でトレーニングが可能と思われた。

(結語) 今後の参加型臨床実習においてシナリオベースシミュレーション教育を実施していくことは卒後の研修医教育に接続するためにも重要と考える。

共催：株式会社京都科学

整理券制

整理券は**当日**に配布いたします。

日時 8月9日(金) 当日
8:00 - 11:00

場所 大学棟本館 2階
参加受付付近

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

ものづくりで教育に感動を

 **KYOTO KAGAKU**

整理券(お弁当)は160枚ご用意
席数は200ございます